

集 → 30. V. 2005, 羽化脱出 (栗原桂一保管) ; 1♂, 同所, 17. VI. 2006, 栗原桂一・材採集 → 21. VI. 2006, 羽化脱出 (栗原桂一保管) ; 1♂, 同所, 16. VI. 2007, 栗原桂一・材採集 → 17. VI. 2007, 羽化脱出 (栗原桂一保管) .

なお, 筆者の一人栗原隆は, 同地においてバイカウツギの生葉を加害する成虫の姿を確認しており, バйкаウツギが本種の成虫および幼虫の加害植物の一つであることが確認された.

末筆ながら, 貴重な情報を提供頂いた栗原桂一氏に厚くお礼申し上げます.

引用文献

秋山黄洋・大桃定洋, 1997. 日本産タマムシ科チェックリスト. 67 pp, むし社.

(農業環境技術研究所 栗原 隆)
(石川県ふれあい昆虫館 福富宏和)

【短報】日本におけるツマキナガタマムシの寄主植物および西表島からの記録

ツマキナガタマムシは台湾で得られた個体をともに記載された種で, 日本の八重山諸島に分布する個体群は亜種 (*Agrilus auroapicalis ishigakianus* Tôyama, 1985) として扱われている (秋山・大桃 2000). 成虫はハマセンダン *Euodia meliifolia* (ミカン科) の葉上に見られることがすでに報告されている (栗原 2001) が, 本種がハマセンダンの枯れ枝より羽化脱出したので, 寄主植物の記録としてここに報告する. また, 日本亜種の分布記録としては, 最初に発見された石垣島のほかに西表島からも記録されている (東ら 2002). しかし, 西表島での正確な採集データを欠き引用文献も不明なため, 西表島における採集記録も併せて報告する.

[羽化脱出記録]

8 exs., 沖縄県石垣市屋良部林道, 25. X. 2002, 栗原桂一&深石隆司・材採集 → 8-26. V. 2003, 羽化脱出 (栗原桂一保管) .

2♂♂1♀, 沖縄県八重山郡竹富町 (西表島) 古見, 28. III. 2007, 福富宏和・材採集 → 2-3. IV. 2007, 羽化脱出



図1. ツヤナガタマムシ
Agrilus capes Lewis, 1893.

(福富宏和保管) .

西表島で採取された材は, ハマセンダンの林縁に張り出した直径 10cm 程度の新鮮な枯枝で, 東京都国立市に持ち帰り衣装ケースに入れ管理したところ, 翌月に成虫が脱出した.

[西表島産の追加記録]

1 ex., 沖縄県八重山郡竹富町 (西表島) 相良川, 29. IV. 2003, 栗原隆採集 (栗原桂一保管) .

18 exs., 沖縄県八重山郡竹富町 (西表島) 大富, 13. IV. 2008, 栗原桂一&栗原春江採集 (栗原桂一保管) .

西表島において採集された成虫のうち, 大富の個体はすべてハマセンダンの生葉を掬って得られたものである.

末筆ながら, 貴重な情報を提供頂いた栗原桂一・深石隆司両氏に厚くお礼申し上げます.

引用文献

秋山黄洋・大桃定洋, 2000. 世界のタマムシ大図鑑. 341 pp, むし社.

東 清二 (監) 屋富昌祖子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太 (編), 2002. 琉球列島産昆虫目録 増補改訂版. 570 pp, 沖縄生物学会.

栗原桂一, 2001. ツマキナガタマムシをハマセンダンから採集. 月刊むし, (366), 47.

(石川県ふれあい昆虫館 福富宏和)
(農業環境技術研究所 栗原 隆)

【訂正】

筆者らは甲虫ニュース (168 号) においてアカガネエグリタマムシを徳之島初記録として報告したが (栗原・一柳 2009), 既に稲田・福富 (2007) (甲虫ニュース, (157), 6) により記録されていたことが判明したので, お詫びすると共にここに訂正する. このことをご指摘いただいた九州大学の山本周平氏にお礼申し上げます.

(農業環境技術研究所 栗原 隆)



図2. ツマキナガタマムシ
Agrilus auroapicalis ishigakianus Tôyama, 1985.